Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

特定非営利活動法人　農スクール

令和５年度報告書

- 未来の農業界を支える人材を育てる -

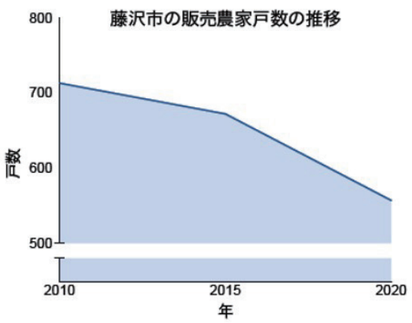
2024 年 2 月 発行
発行　特定非営利活動法人　農スクール
〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原 1100-9
電話：0466-21-7285（繋がらない場合はメールにてご連絡ください）
Email：info@know-school.org
URL：https://know-school.org/

1. 社会的背景と課題

1-1. 農業の人手不足

藤沢市やその近辺は、東京から1時間という交通至便な立地と工業用地に適した平坦な地形が多いことから、昭和30年代中頃から多くの企業が進出し、優良な農地が集まる中北部農業地帯まで市街地が広がりました。都市化に伴い、農業者の多くは他産業へ流出し、兼業化も進みました。また、農地が宅地や他用途へ転用され農地面積が減少するなど、農業を取り巻く環境は大変厳しいものとなっています。しかしこのような環境の中でも、営農継続の意欲をもつ農家を中心に、農業の近代化が図られ、消費地に近いという立地条件を活かした新鮮・安全な農産物の供給を強みに収益性を向上し、露地野菜、施設野菜、花卉、果樹、植木、畜産といった多様な生産活動が展開されています。また都市農業の多面的機能である、災害時の防災空間、良好な景観形成、洪水の抑制や多様な生物を育む環境保全、農作業の体験や交流の場の提供、農業に対する理解の醸成等に寄与しています。

担い手の状況としては、販売農家戸数が、2010年713戸から2020年には557戸と年々減少しており、全国的な傾向と例外なく担い手の減少が進んでいます。このような状況下、藤沢市では2009年から農外からの新規参入者の受け入れを開始していますが、市全体での農業生産額は減少傾向にあります。



▶農林業センサス（神奈川県）より一部抜粋し作成
http://www.pref.kanagawa.jp/docs/x6z/tc50/nousen/nousentop.html

就職就農の間口を拡げていくことが農業者の増加に寄与

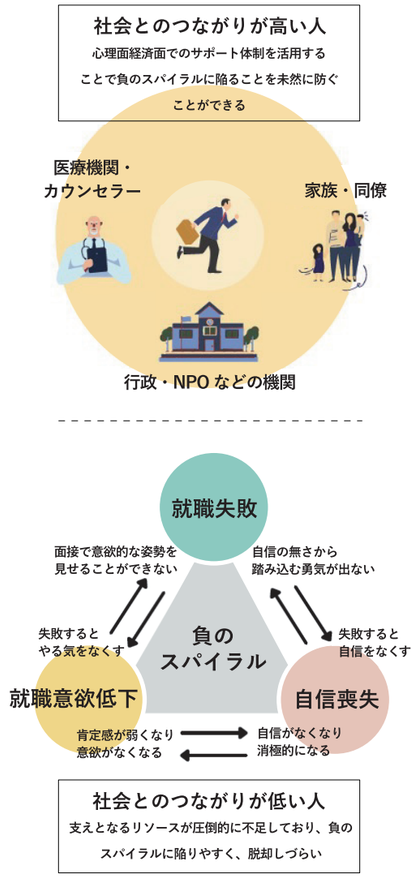
賃金を生み出す就農方法には、二つの方法があります。一つ目は自ら農業を事業として興す独立就農、二つ目はすでに農業を営んでいる農業法人や農家に就職する就職就農です。独立就農は、農地の確保や農作業を行うための設備投資にまとまった資本が必要となるため、安定的な賃金を得るためのビジネスモデルを確立するために時間が必要となり、ハードルが高いのが現状です。一方で就職就農は安定的な賃金を得ながら働くことができるため、独立就農と比較するとハードルも低く、就農の選択肢としては現実的な方法であると言えます。
しかし、神奈川県内では個人や家族で農業を営んでいる経営体が多く、就職就農を選択している人が少ないことが明らかになっており、就労の選択肢として就職就農という道が少ない状況にあります。そのため、就職就農の間口を拡げていくことが農業者を増やすことに寄与します。

	就職就農	独立就農
初期投資	**特になし**	土地、農作業設備に関わる費用がかかる
労働時間制度	**固定時間制度**	裁量労働制度
業務内容	**経営者の方針による（場合によっては限定的）**	経営にまつわる業務や農作業業務まで多岐にわたる

独立就農と比較すると**入り口のハードルが低い**にも関わらず
就職就農という**選択肢が浸透していない**、または就職就農の**間口が狭い**

1-2. 引きこもり人口の増加

2018年に実施された、「就労困難者に関する調査研究」によると、日本の就労困難者数は、積み上げ方式では、1,796万人にのぼります。さらに、2020年に世界規模で拡大したコロナウイルスのパンデミックによる失業率の増加も相まり、生活保護受給者は年々増加傾向にあり、今後も増加していくことが見込まれています。それに伴い問題となるのが社会保障費（生活保護費用）の増大です。社会保障費の増大を抑えるためには、生活保護受給者の自立を支援していくことが重要です。これには、２つの方策があるとされています。１つ目は、失業状態にある人に対し、就労支援を行い、雇用につなげ、経済的な自立を促すこと。もう１つは、失業によって、引きこもり状態になり、生活困窮状態に陥るリスクを有した人たちに対して、生活保護を受けずに済むような支援をすることです。
誰しもが、失業したり、就職活動に失敗する可能性があります。しかし失業した際、衣食住があり、社会とのつながりを持っていれば、家族や同僚からの心理的サポートや、失業保険等の経済サポートにより、負のスパイラルに陥ることを未然に防ぐことができます。また、陥ったあとでも、周囲の包括的サポートを活用していくことで、負のスパイラルを断ち切ることができます。



一方で、就労に困難を抱える人や引きこもり状態の人は、社会的なつながりが希薄になっていることも多く、孤立しやすいと言われています。そのように、心理的サポートや経済的サポートといった、負のスパイラルを断ち切るためのリソースが不足している場合、一般的な人よりも負のスパイラルに陥りやすく、脱却しづらい傾向があります。
就労に困難を抱える人や引きこもり状態の人は、単に就職に対して踏み込めないだけでなく、自分自身に対しての自信を喪失しているケースが多く、就労というゴールに向かうためには、負のスパイラルを断ち切るためのメンタルトレーニングが重要となります。

就労支援の現場では徐々に自信を取り戻していく過程が重要

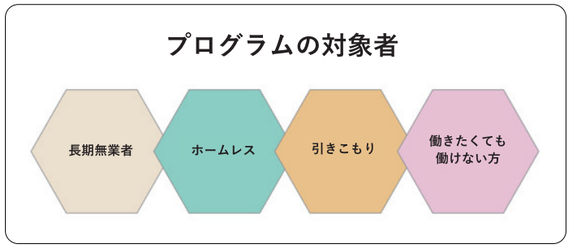
実際に就労していく場面においては、もともと引きこもり状態だった人がすぐに正社員と同様に週40時間の労働を行うことは難しく、就労支援の現場から就労の現場へと出た際に大きなギャップが生じ、長期で働くことが難しい状況を招いてしまう危険性があります。このような経験が自信喪失につながるリスクにもなりうるため、まずは**短時間的に労働に携わることから始め**、徐々に体を慣らしていくことが重要です。また、特に新しい職場についた際には肉体的にも精神的にも非常にきつい状態になる「３ヶ月の壁」というものが存在すると言われています。そのような状況になった際にも、受講生が自分自身を俯瞰して捉え、壁を乗り越えていける力を身につけてから就労するために受講生の性格、身体・精神状況就労への適性を的確に判断し、社会参画へと導くことが重要です。

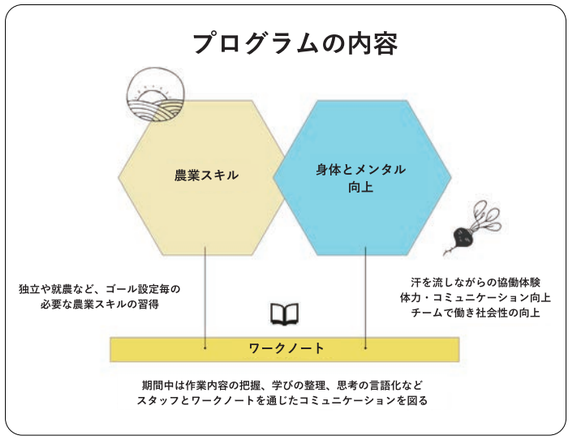
2. 農スクールの概要

2-1. 農スクールプログラム

NPO 法人農スクールでは、農業界の人手不足、就労困難者の増加の両方の問題にアプローチすることを目指しています。就労に困難を抱える人の中でも、潜在的稼働能力を有する人材や、引きこもり状態の人などをターゲットに、農を舞台とした人材育成プログラムを提供することで、就労や就農への意欲を高め、彼らの経済的な自立を後押しする活動を行っています。

農スクールの特色は、就労困難な状態にある人を“未来の農業界に貢献していく人材”と捉え農業スキルやメンタルのサポートを行うことです。





前項でも述べたように、就労困難な状態にある人たちは自分自身に対する自身を喪失しているケースが多く、就労に踏み出すためにはまずは自信を取り戻していくことが重要です。一般的な就労支援サービスは、就労困難者を支援される対象として捉える傾向があるため、サポートの仕方によっては当事者の自立を妨げたり、リアルな就労の場に出た時に即戦力とならず、短期的に就労ができたとしても長続きしないケースが存在します。一方で農スクールでは受講生である就労困難者を未来の農業界に貢献していく人材として捉えています。彼らが農スクールを卒業した後でも長く働き続けるために、真に就労先に貢献できる人材になるためには何が必要かということにフォーカスしたプログラムを提供しています。

農スクールの取り組み

働けない状態の人を日本の農業界を支える人材へと育成することで

農業の担い手不足と引きこもり人口の増加、2 つの問題にアプローチ

2-2. 農スクールの目標

長く働くことができる人材を育てる

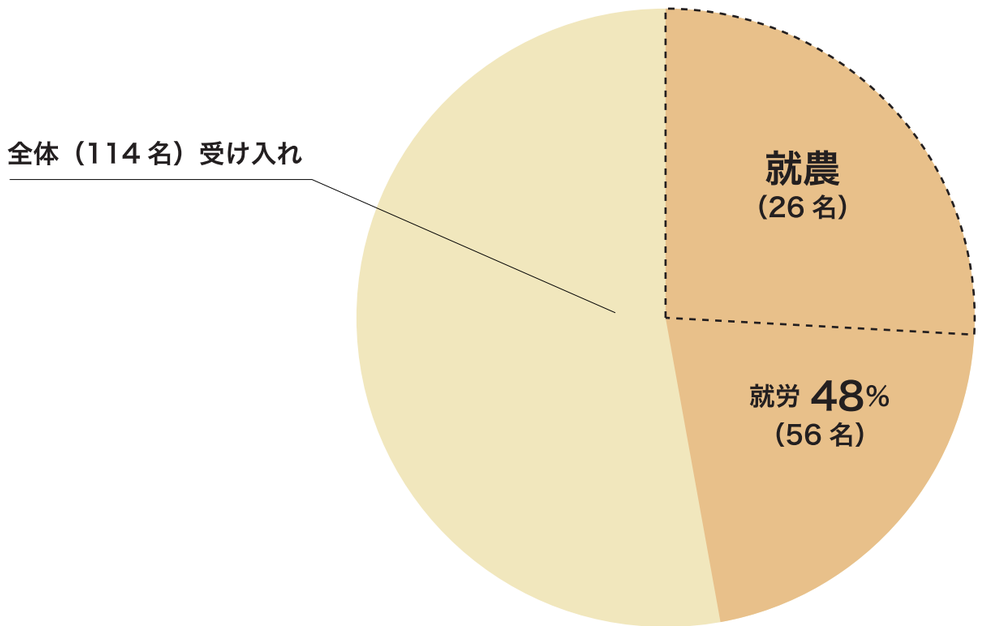
就労支援の場面では、働けない状態から、就労することだけでなく、就労を成功させた後も継続して働いていくことも重要なポイントです。引きこもり状態から就労の現場にでた人が長く働き続けるためには、1 人ひとりが本来持っている長所を生かしながらも、就労した現場での生産性を上げることができる人材となり、就労先との信頼関係を築いていくことが必要不可欠です。農スクールでは農キャリアトレーナーという認定資格を有するトレーナーが受講生に付き添い、農業スキルやメンタルトレーニングを提供してきました。まずは、朝起きて農スクールに来る、農作業をして帰宅し、夜は眠る。体のリズムを整えるところから始め、その後、就労に必要な体力やスキルを養成していくことで、農作業スキル及び就労に必要な体力を身につけていきます。

農業を就労先として選択することが当たり前の未来をつくる

東京から 1 時間という交通至便な立地であり、農地も残るこの地域の役目として、農業に携わることで賃金を得られる就職就農の間口を広げ、雇用拡大を図ることが重要です。これによって都市で生活している方が就労先として農業を選択することが当たり前になる未来を作ります。

2-3. 農スクールプログラムの実績

2022 年度まで、働きづらさを抱えた、ホームレス、生活保護受給者、引きこもり、ニート、心の病で休職されていた方などを 114 名受け入れてきた中で（※2009 年～2013 年の（株）えと菜園での実績を含む）、48%（56 名）が就労しています。また、就労者の 51 名のうちほぼ 2 人に 1 人（26 名）が就農しています。



2022 年版データ〔※2009 年～2013 年の（株）えと菜園での実績を含む〕

3. 2023 年度の活動報告

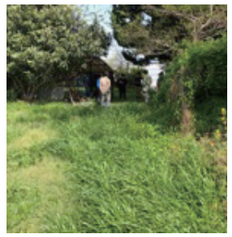
3-1. 就農支援プログラム - 導入編 -

1 回目

2023 年 4 月 11 日 (火)14:00-16:00

参加者：9 名（受講生 7 名 / スタッフ 2 名）

報告：導入編の初回日となる本日は晴天となり、7 名の参加者も全員出席して顔を合わせることができました。事務所に集合後、畑に移動しプログラムの説明や、受講契約書の読み合わせなどのオリエンテーションを行いました。



2 回目

2023 年 4 月 18 日 (火)14:00-16:00

参加者：8 名（受講生 6 名 / スタッフ 2 名）

報告：剣型スコップを使った天地返しから、鍬を使った畝作り、そして最後には植え付けまで、一通りの作業を学んで習得することを目標に取り組みました。最初は、草がたくさん生えていた畑ですが、力を合わせながら作業をするとあっという間に畝ができて、無事里芋の植え付けが完了しました。

3 回目

2023 年 5 月 9 日 (火)14:00-16:00

参加者：7 名（受講生 5 名 / スタッフ 2 名）

報告：GW を挟み 3 週間ぶりの開催となり、畑の雑草の勢いに驚きながらも、みんなで除草をしました。また、トマトやナスをはじめ夏野菜の苗を 200 本ほど定植しました。これからどんどんと成長する野菜たちを見ていくのがとても楽しみになる回となりました。

4 回目

2023 年 5 月 16 日 (火)14:00-16:00

参加者：8 名（受講生 6 名 / スタッフ 2 名）

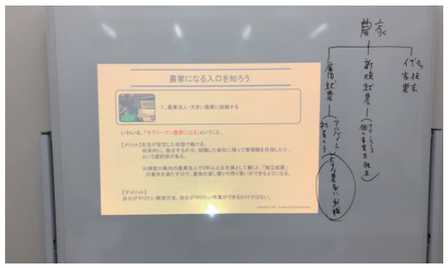
報告：前回植えたトマトなど夏野菜の管理を中心に行いました。風に煽られて倒れないための誘因や、収穫する実を大きくするための芽掻きなど、夏野菜の栽培には欠かせない作業を行いました。一度だけではなく、継続的に必要な管理になるので、受講生ともども、引き続き取り組んでいきます。

5 回目

2023 年 5 月 23 日 (火)14:00-16:00

参加者：8 名（受講生 6 名 / スタッフ 2 名）

報告：当日は雨が降っていたため、屋内でのプログラムを行いました。農業品目を野菜、米、畜産に分けたり、独立就農・雇用就農などを体系立てて学ぶ良い機会となりました。さまざまな農業での働き方を学ぶ中で、それぞれに合った就農のかたちを今後も引き続き探していきたいと思います。



3-1. 就農支援プログラム - 導入編 -

6 回目

2023 年 6 月 13 日 (火)14:00-16:00

参加者：8 名（受講生 6 名 / スタッフ 2 名）

報告：前回が雨で屋内開催であったため、およそ 1 ヶ月ぶりに畑での農作業を行いました。作業では、さつまいもの植え付けを行いました。このさつまいもは、毎年 11 月に開催している農スクール交流会で掘り起こします。

7 回目

2023 年 6 月 20 日 (火)14:00-16:00

参加者：7 名（受講生 5 名 / スタッフ 2 名）

報告：ちょうどこの頃から雑草の勢いが増し、1 週間前に管理をした圃場もきれいに草で覆われていました。そんな雑草の生命力に受講生ともども感心しながらも、プログラムでは集中して草取りを行いました。また、管理してきた夏野菜の収穫も段々とでき始め、野菜を育てる大変さと楽しさを両方味わえるようになってきました。

8 回目

2023 年 7 月 4 日 (火)14:00-16:00

参加者：7 名（受講生 5 名 / スタッフ 2 名）

報告：以前定植したナス、ピーマン、バジル周りの除草と、播種をしたカボチャ周りの除草を重点的に行いました。雑草が作物の背丈ほど雑草が伸びてしまっており、一見途方もない作業に見えましたが、みんなで協力して行うと、みるみるうちに綺麗に除草ができました。受講生のみなさんの作業スピードや集中力が向上している様子が見て取れました。

9 回目

2023 年 7 月 18 日 (火)14:00-16:00

参加者：8 名（受講生 6 名 / スタッフ 2 名）

報告：35℃近くの気温で大変暑くなりましたが、畑の除草を中心にプログラムを行いました。また、全１０回の導入編も第 9 回目になり、今後の方向性に関して受講生それぞれと面談を行いました。プログラムも第 9 回目に差し掛かると、受講生の皆さんの体力や集中力が向上していて、暑い中でも黙々と取り組めていたことが印象的です。

10 回目

2023 年 7 月 25 日 (火)14:00-16:00

参加者：8 名（受講生 6 名 / スタッフ 2 名）

報告：前半の 1 時間で除草作業とトマト・ナス・ピーマン・唐辛子の収穫を行いました。農スクール導入編最終日となるこの日も、例外なく暑さの厳しい中でしたが、受講生の方々は慣れた様子で作業に取り組んでいました。後半の 1 時間では、導入編修了式を行いました。今後は、基礎編へ進まれる方、農業以外の道で就労を目指す方、など進む道は様々ですが、農スクール導入編を一つのきっかけとして、各自の道へ進んでいきます。

3. 2023 年度の活動報告

3-2. 就農支援プログラム - 基礎編 -

1 回目
自社圃場

2023 年 8 月 8 日 (火)14:00-16:00

参加者：5 名（受講生 2 名 / スタッフ 3 名）
報告：基礎編は雇用就農に向け本格的にアクションを起こしていく段階になりますので、第 1 回講座はその心構え等を共有しました。また、その後トラクターや耕運機、刈払機など農業機械の紹介を行いました。まだまだ暑い日が続きますが、体調に気をつけながら、受講生、スタッフともども就農に向け、気持ちを新たに取り組んで行きます。

2 回目
高橋農園さん

2023 年 8 月 29 日 (火)14:00-16:00

参加者：4 名（受講生 1 名 / スタッフ 3 名）
報告：第 2 回講座では、農スクール卒業生で、独立農家として営農する方のところへ農家研修にいきました。主に、鶏糞、米糠、肥料を元肥として畑にまく作業を行いました。これまでの導入編の畑とは違い、より大きなスケールでの農作業でしたが、最後までしっかりと取り組まれていました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました！

3 回目
ふるうつらんど井上さん

2023 年 9 月 12 日 (火)14:00-16:00

参加者：7名（受講生2名/スタッフ2名/見学3名）
報告：第 3 回講座では、果樹や野菜の生産を行っている農園に伺いました。プログラムではさつまいも堀りを行いましたが、商品のさつまいもを傷つけないように丁寧に、且つできるだけ早く作業をすることが求められていたため、少し苦戦している様子も見受けられました。就農していくにあたって、この 2 点を両立することは重要なため、今後も意識して取り組めると良いと思います。その後、長い年月の樹齢を誇る梨の木の見学もさせていただきました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました！

4 回目
永田農園さん

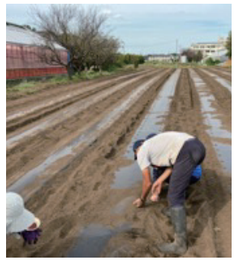
2023 年 9 月 26 日 (火)14:00-16:00

参加者：8名（受講生1名/スタッフ4名/見学3名）
報告：本日は、株式会社永田農園さんという藤沢で苗の生産・販売を主に行っている農業法人に伺いました。社員の方から、農園の案内や仕事の紹介等を直接行っていただき、受講生も熱心に聞き入りながら、自分の気になる点を積極的に質問をしていました。「農業で働く」ということを、真剣に考え、行動しているところが印象的でした。今後もこの調子で、前に進んで行って欲しいと思います。

5 回目
ひろしファームさん

2023 年 10 月 3 日 (火)14:00-16:00

参加者：3 名（受講生 1 名 / スタッフ 2 名）
報告：本日は独立就農をされて 6 年目になる宮國さんの農園（ひろしファーム）に伺い、農家研修を行いました。合計 5 本の 40m ほどの畝に大根の種まきをしました。農業就職をする際、今回のような細かい連続作業は多くあるため、良い学びになりました。また、農業をしていて苦労する面なども宮國さんからお話いただき、様々な視点から就農を考える良い時間になりました。

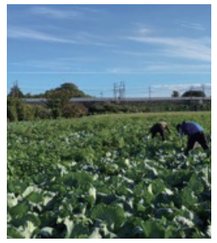


3-2. 就農支援プログラム - 基礎編 -

6 回目
まめっぱ農園さん

2023 年 10 月 10 日 (火)14:00-16:00

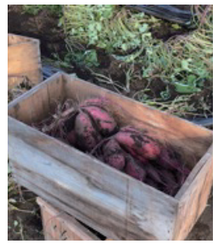
参加者：4 名（受講生 2 名 / スタッフ 2 名）
報告：本日はまめっぱ農園さんに伺い、農家研修を行いました。前半は、オクラの残渣をかき集めて、片付ける作業。後半はキャベツ畑の畝間・株間の除草を行いました。どちらも根気強く取り組む必要がある作業でしたが、後半になるにつれて集中して取り組んでいる様子が印象的でした。これからもこの調子で農業で働く力を養っていって欲しいと思います。



7 回目
やさいの秋葉さん

2023 年 10 月 24 日 (火)14:00-16:00

参加者：3 名（受講生 1 名 / スタッフ 2 名）
報告：本日はやさいの秋葉さんにうかがい農家研修を行いました。さつまいもの茎を鎌で切り、マルチをはがし、土を掘り返して芋を掘り出す。掘り出した芋はコンテナに丁寧に詰め込んでいく、といった一連の作業を本日は行いました。黙々と作業に取り組んでいました。また農作業をする傍で直売所機能も備えていて、発見が多い現場だったようです。



8 回目
交流会

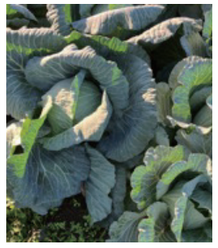
2023 年 11 月 3 日 (火)14:00-16:00

参加者:7名（受講生1名/卒業生就農者2名/サポーター1名/スタッフ3名）
報告：本日は農スクール卒業生で、農業法人に就職されている方 1 名と独立就農されている方 1 名をお呼びして、就農に関する相談などができる「交流会」を開催しました。普段は、農作業を行っている中でじっくりと就農等について話をしたり、相談をしたりする機会はありませんが、本日は 2 時間ほどの時間、ゆっくりと落ち着いて話ができている様子でした。会を経て、「これから就農に向けて頑張ろうという気持ちになりました」と前向きな気持ちを受講生は話してくれました。

9 回目
大石農園さん

2023 年 11 月 14 日 (火)14:00-16:00

参加者：3 名（受講生 1 名 / スタッフ 2 名）
報告：本日はお一人で 3 町歩の面積を作付けされている農家さんのところで研修を行っていただきました。一枚の圃場の面積が、4 反あるなど目に見える規模感が大きく、貴重な経験をさせていただきました。また、農業の良い面だけでなく、農作物の病気や害虫被害などの大変な面もお話くださりました。キャベツの収穫指導や体験もさせていただきありがとうございました。



10 回目
金指農園さん

2023 年 11 月 28 日 (火)14:00-16:00

参加者：3 名（受講生 1 名 / スタッフ 2 名）
報告：本日は海老名市の金指農園さんに伺い研修を行いました。レタスとブロッコリーの収穫を行い、収穫適期の見分け方を学びました。またその後、農園の見学や質問タイムを設けてくださり、受講生の疑問の解決や新たな発見に大いに繋がった時間となりました。その後、最後には修了証授与を行い全 10 回の基礎編を終えました。これからも就労就農に向けたサポートを農スクールでは行っていきます。

3. 2023 年度の活動報告

3-3. プログラム動画の撮影

これまで、農スクールプログラムのマニュアル作成（2021 年度発行）や、プログラム卒業生の声を集めたプログラム紹介冊子の作成（2022 年度発行）などを行なってきましたが、本年度はより就労支援の現場感が伝わり、就労・就農支援を行いたいと思っている方々が簡単に参考にできるような動画の制作に取り組みました。

エキストラによる導入編撮影

導入編では、受講生が安心してプログラムに取り組めることを最優先に考え、エキストラによるプログラムの再現を行いました。動画撮影のディレクターの方と共に、導入編プログラムのポイントをまとめ、最終的には 4 つの動画に分けて制作を行いました。

準備編	実践編 1	実践編 2	実践編 3
～道具と服装～	～始まりの挨拶・ソロワーク・ペアワーク～	～技術習得と成功体験～	～進路面談と終わりの挨拶～

実際の現場での基礎編撮影

固定されたメンバーだけで行う導入編に比べて基礎編では、研修を行なってくださる農家さんをはじめ、受講生はいろいろな方との関わりを持ちながらプログラムを受講するようになってきます。そのため、基礎編の撮影は実際の現場を撮影しました。こうすることでより現場感が伝わるようなプログラム紹介動画を制作することができました。

基礎編
プログラム
の紹介動画

3-4. プログラム動画の紹介ホームページ作成

制作した動画のプラットフォームとして、これまでの農スクールホームページに紐づける形で、動画紹介サイトを作成しました。本サイトにアクセスすることで、プログラムに興味を持っている方から、これから就労・就農支援を行っていきたいと考えている方まで、幅広い方々に、どこからでも、その現場感を伝えられる体制が整いました。

プログラムの
動画紹介

4. 終わりに

さらなる活動の普及を目指して

これまでの取り組みの中で、さまざまな働きづらさを抱えた方々のメンタル状態の向上と雇用主となる農家さんが求めるスキル向上を目標にした就農支援プログラムの構築と実装を行ってきました。また、これらの内容をマニュアルとして冊子にまとめたり、トレーナー育成教材の作成を行ったりしてきました。今年度、プログラム内容をより“臨場感”を持って伝えることのできる動画という形でプログラムをまとめることができ、より広く活動を普及させるための基盤を構築することができました。来年度以降、これらの基盤を活用することで、さらなる就労・就農支援の輪を広げていきます。

～メッセージ～
今年も、多くの方に支えていただき、「農を食と職に」を合言葉に、働きずらさを抱える引きこもりの方や生活困窮者の方と人手不足の農業法人をつなぐ取り組みを行うことができました。
この場をお借りして感謝申し上げます。今後とも何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

農スクール代表　小島希世子